

俳優・映画監督・ミュージシャン。美術の才能にも溢れジャンルを超え幅広く活躍し続ける竹中直人さん。人との出会いを大切に歩み続けた芸能生活は40余年。その堂々たるキャリアとは裏腹に、お話を聞くほどに心の奥に秘める繊細さに驚かされる。竹中さんの意外(?)な素顔とは。

のどかな風景とネオン輝く街

生まれ育ったのは金沢区富岡町です。小説家・直木三十五が眠るお寺、長昌寺があり近くには「芸術は短く貧乏は長し」と刻まれた直木三十五の文学碑もあります。19歳までここで日々を過ごしました。夏の早朝、裏山の木を揺らせばカブトムシやクワガタが何匹も落ちてきました。最寄りの京急富岡駅に行くには山を二つ越えるのですが、街灯もなく夜は真っ暗。実家のある前の道は未だ舗装されてないです。

家から歩くとすぐ富岡海岸があって、潮干狩りでも有名でした。横浜出身というと「都会だね」とよく言われますが自分を育ててくれた富岡町はそんな自然に囲まれた環境でした。

父と母が土曜日になるとよく連れて行ってくれたのが映画館です。区役所勤めだった両親の仕事が早く終わるのが土曜日、ネオン輝く桜木町や馬車道通りによく出かけました。あのころの僕の目には街の光があまりにも異空間でドキドキしたことを覚えています。鍵っ子の一人っ子だったから両親と出かけるのがすごくうれしくて満面の笑顔で街を歩いていると、偶然同級生が前から現れて、慌てて母とつないでいた手をふり離してつまらなそうな顔をしたりしていました。

ずっとずっと映画が好き

子ども時代の一番の衝撃が映画だったから、美術部だった高校時代、映画撮影に目覚めました。「部費で8ミリカメラを買って、文化祭に向けてドキュメンタリー映画を作ろう!」とクラブのみんなに提案したんです。実は好きな女の子を8ミリカメラで撮りたくて、美術部のみんなを巻き込んだんです。結局恥ずかしくてその娘にはカメラを向けられなかった。その後、美大に進むと「映像演出研究会」

というクラブがあって、そこに入りました。自分で脚本や絵コンテを書くのを初めて経験しました。自分たちで作った映画をもっと多くの人に観てもらおうなんて欲は誰ひとり持ってなかったな…。価値観を共有できる仲間が集まって映画を作る、それがただただ楽しかった。あつという間の4年間でした。

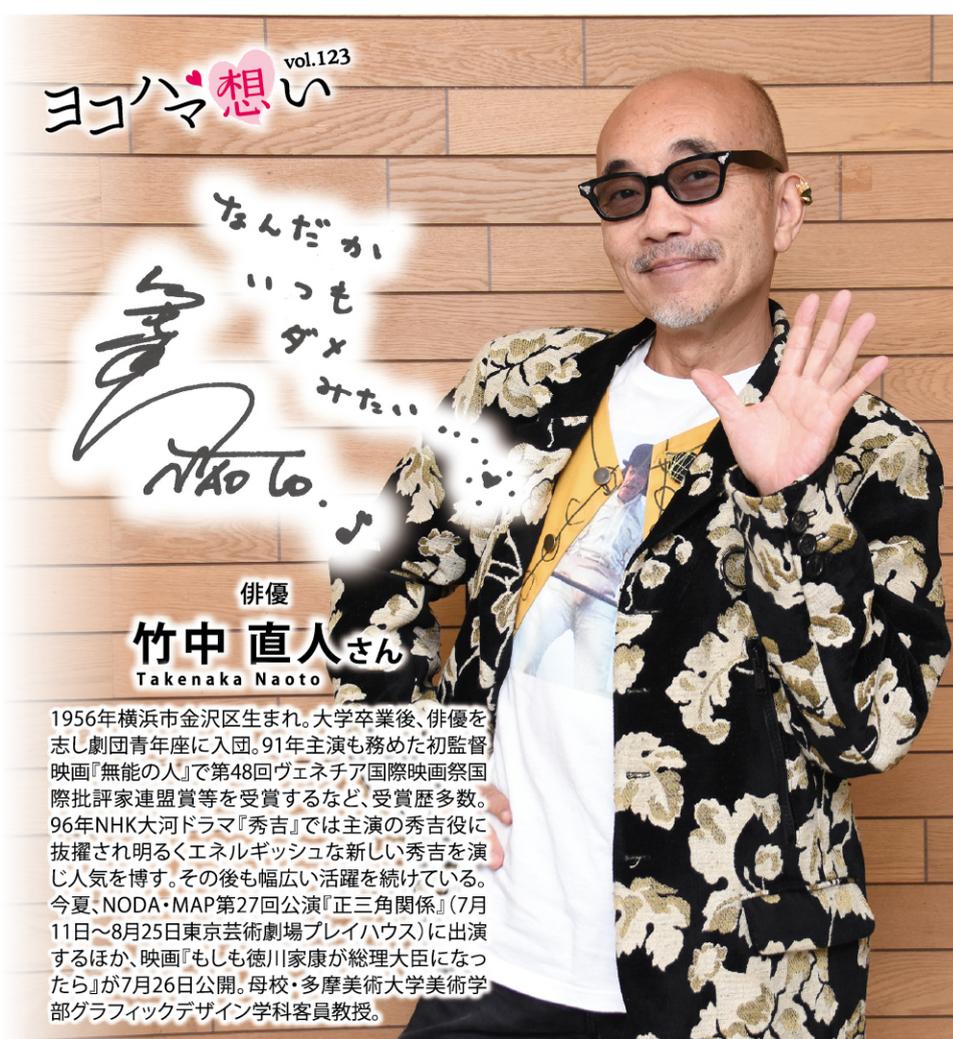
プロとして映画を撮るようになっても学生時代の感覚と全く変わらなかったこと、そのことに驚きました。こんなに楽しくていいのかなって。違っているのはただそこにプロがいるということだけ。初監督映画『無能の人』を撮った時もまるで夢を見ているようでした。この映画に登場する子役を選ぶ時、僕はきっちり教育されている子役よりも前が向けなかったり、声が聞き取りづらい子を選びました。そういう子の方がちゃんと教育されている子役よりも圧倒的に面白いんです。

自分じゃない誰かになる

僕は自分に自信がなくて、「自分じゃない誰かになりたい」という思いがずっとありました。だから俳優は最高の仕事だと子どもころからの憧れだった。モノマネをするのも自分じゃない人間になりたい!という、ただただそれだけでした。

そんな人生の中で一番多く演じた役が豊臣秀吉。今月公開の映画で、5度目の秀吉を演じました。AIで現代によみがえった財務大臣の秀吉です。同じ秀吉でも、作品ごとに監督も脚本も違います。人間はみんないくつもの側面を持っていると思います。秀吉もさまざまな角度から描かれてゆくので何度演じても新鮮です。「露と落ち 露と消えにし我が身かな 浪速のことも 夢のまた夢」。これは秀吉の辞世の句です。たまらなく切なくて好きですね。

今月は舞台もやるんです。生でお客さんと向き合う舞台は毎回つらくて必死です。舞



俳優
竹中直人さん
Takenaka Naoto

1956年横浜市金沢区生まれ。大学卒業後、俳優を志し劇団青年座に入団。91年主演も務めた初監督映画『無能の人』で第48回ヴェネチア国際映画祭国際批評家連盟賞等を受賞するなど、受賞歴多数。96年NHK大河ドラマ『秀吉』では主演の秀吉役に抜擢され明るくエネルギッシュな新しい秀吉を演じ人気を博す。その後も幅広い活躍を続けている。今夏、NODA・MAP第27回公演『正三角関係』(7月11日~8月25日東京芸術劇場プレイハウス)に出演するほか、映画『もしも徳川家康が総理大臣になったら』が7月26日公開。母校・多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科客員教授。

台で芝居するのは決して楽しくない、むしろ「苦しい」です。生の舞台上で突然セリフが飛んたらどうしよう!というプレッシャーが日々襲ってきます。そんなにづらい舞台なのに来年も舞台をやってしまうんです。本当に不思議です。どんな仕事もそうだと思いますが俳優という仕事の魅力はやはり「出会い」です。出会いがあるから面白い。心から愛せる数少ない人と、作品を作る時間を共有できることが、たまらなくおいしいのだと思います。

なんだか今日もダメみたい

人との出会いや子どもころのことを、ただただ勢いだけで書きました。書いている時はものすごく集中して書くのが楽しくて「ダメだ!止まらない!」ってなっていました。でも人生にも本にも限りがありますか

ら、途中で書くのをやめました。(笑)

何かを書く時も作る時も、ただただ集中力と直感力だけです。伝えたいことなんて考えたことはありません。出来上がった結果を判断するのは結局自分とはかけ離れた他人でしかない。だから初めからビジョンがあるわけではないんです。それは演じること、映画を作ること、絵を描くこと、全てに共通していることなんじゃないかな。

『なんだか今日もダメみたい』

竹中直人著/カバー装画:奈良美智
(筑摩書房)1,650円+税
6月24日発売

家族や学生時代のエピソードから俳優や音楽家との交流まで、全編書き下ろしエッセイ集。



葉山家具

7月31日
水曜日
まで

決算セール 第1弾

店内展示現品クリアランス10%~30% OFF

一枚板続々入荷中!

即日
使用可

期間中に紙面持参の上25万円以上(税込)お買い上げの方に
葉山ガーデン5000円分ギフト券をプレゼント!

- 京急上大岡店**
●横浜市港南区上大岡1-6-1
京急百貨店7Fユニクロ横
①10時~20時 ②なし
☎045-848-7299
- 西武東戸塚S.C.店**
●横浜市戸塚区品濃町537-1
西武東戸塚S.C.店5F GU横
①10時~20時 ②なし
☎045-828-3171
- みなとみらい東急スクエア店**
●横浜市西区みなとみらい2-3-2
みなとみらい東急スクエア① B1
みなとみらい駅中央改札前
パン屋横のエスカレーター上
①11時~20時 ②なし
☎045-640-1710
- 東急百貨店たまプラーザ店**
●横浜市青葉区美しが丘1丁目7番地
東急百貨店たまプラーザ店4F
下りエスカレーター前
①10時~20時 ②なし
☎045-903-2296

